

平成30年度新規研究課題

課題番号（7）

課題名：クリシギゾウムシの防除技術の開発

研究期間：平成30～32年度

研究担当：農業技術部資源循環研究室

1 研究の背景

- ・岩国市と美祢市のクリ産地では、クリシギゾウムシ¹⁾防除のため、収穫後のヨウ化メチルくん蒸処理を平成26年度より導入している。
- ・国内唯一のヨウ化メチル剤メーカーが平成29年で当剤の製造・販売を中止すると、平成28年に発表した。
- ・ヨウ化メチル剤の有効期限は3年であり、平成32年以降くん蒸処理薬剤がなくなるため、早急に代替防除技術の探索等の対応が必要である。

2 目的

ヨウ化メチルくん蒸施設を活用できる新たなくん蒸薬剤を既存農薬の中から探索し、クリへの適用拡大に必要なデータを得る。

3 研究内容

- (1) クリシギゾウムシに対する薬剤の効果確認〔室内試験〕
 - ・異なる条件（処理量、温度、時間等）における既存農薬のクリシギゾウムシへの殺虫効果を確認し、高い殺虫効果が得られるくん蒸条件（処理量、温度、時間等）を明らかにする。
 - ・処理後の臭気、色調、腐敗、品質等を確認し、薬害程度に応じた処理方法を確立する。
- (2) ヨウ化メチルくん蒸施設における薬剤の効果確認
 - ・施設・天幕施設において、既存農薬のクリシギゾウムシへの殺虫効果を確認し、実用施設における殺虫効果を明らかにする。
 - ・処理後の臭気、色調、腐敗、品質等を確認し、実用施設における薬害程度に応じた処理方法を明らかにする。
 - ・処理時における安全使用上の注意点をリストアップし、処理マニュアルを策定する。

4 研究のポイント

- ・既存のくん蒸剤のクリシギゾウムシ等に対する殺虫効果が明らかになり、農薬登録に必要なデータが得られる。
- ・ヨウ化メチル用に整備した施設を有効利用したくん蒸処理が可能となる。

脚注 1) クリの果実に産卵し、幼虫が果実内を食害するクリの重要害虫。山口県の主力品種である「岸根」に代表される晩生品種ほど被害が大きい。消費者の手にクリが渡る頃に幼虫が果実から脱出してくるため、100%に近い防除率が必要とされる。

クリギゾウムシの防除技術の開発(H30~32)

農業技術部資源循環研究室



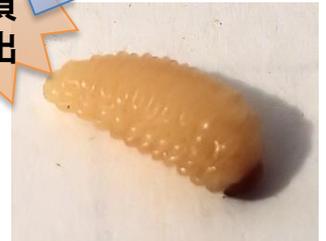
クリギゾウムシ(成虫)

9月上旬
に産卵

クリギゾウムシ被害果



消費者
の手に
渡る頃
に脱出



クリギゾウムシ(幼虫)

ヨウ化メチルくん蒸施設(岩国市)



ヨウ化
メチル
くん蒸
で防除
(H26~)

生産メーカーが
H29年でヨウ化
メチル剤の製造・
販売を中止する
と発表(H28)

ところが...

**H32年以降くん蒸処理薬剤がなくなるため、
早急に代替防除技術の探索等の対応が必要**

既存のくん蒸処理剤について、クリへの登録適用拡大を検討

- ✓ 薬剤のクリギゾウムシへに対する効果、クリへの薬害を確認 (H29年度に予備試験を実施中)
- ✓ 残留分析及び登録適用拡大について、メーカーと協力する。
- ✓ 他県とも共同で試験を行い、試験期間の短縮を図る。

